



2020年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月3日

上場会社名 イー・ガーディアン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6050 URL <https://www.e-guardian.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高谷 康久
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 溝辺 裕 TEL 03-6205-8859
 四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第1四半期の連結業績（2019年10月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第1四半期	1,854	15.1	359	20.6	374	17.6	233	12.9
2019年9月期第1四半期	1,610	10.7	297	6.9	318	11.7	206	10.2

(注) 包括利益 2020年9月期第1四半期 242百万円 (15.2%) 2019年9月期第1四半期 210百万円 (11.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第1四半期	23.03	—
2019年9月期第1四半期	20.26	20.25

(注) 「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」の算定上、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第1四半期	4,670	3,637	76.6
2019年9月期	4,598	3,488	74.5

(参考) 自己資本 2020年9月期第1四半期 3,575百万円 2019年9月期 3,426百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2020年9月期	—	—	—	—	—
2020年9月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2020年9月期の1株当たりの配当金につきましては、現在未定です。

3. 2020年9月期の連結業績予想（2019年10月1日～2020年9月30日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	3,550	10.4	536	△7.0	556	△7.3	387	△1.6	38.29
通期	7,400	13.2	1,201	2.9	1,221	1.6	850	1.2	84.01

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

「1株当たり当期純利益」の算定上、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外1社（社名）株式会社アイティエス

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期1Q	10,405,800株	2019年9月期	10,405,800株
② 期末自己株式数	2020年9月期1Q	278,321株	2019年9月期	278,299株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期1Q	10,127,491株	2019年9月期1Q	10,198,998株

（注1）期末自己株式数には役員向け株式交付信託が保有する当社株式を含めて記載しております。また、期中平均株式数の算定に当たり、その計算において控除する自己株式に、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

国内のインターネット関連市場におきましては、フィンテック（※1）及びC to Cサービス（※2）の拡大、並びに海外ゲーム関連企業の日本進出等、引き続き市場成長が継続しており、今後もインターネットにおける技術革新はますます進み、様々なサービスが展開されていくものと予想されます。

その一方で、個人情報漏洩事件や特定の組織を狙う標的型攻撃に加え、IoT（※3）によりあらゆるものがリスクにさらされる等、インターネットに関するセキュリティ侵害は年々深刻化しており、全てのインターネットユーザーが安心してインターネットを利用できるよう、安全性を求める声は一層高まりを見せております。投稿監視やカスタマーサポート（以下、「CS」という）のニーズに加え、Webアプリケーションにおけるセキュリティへの関心もますます増加しております。

用語説明

- （※1）IT技術を活用した金融サービスを指し、ファイナンス（Finance）とテクノロジー（Technology）を組み合わせた造語。SNSによる送金、及び電子マネー履歴を活用した家計簿の自動作成等サービス等多岐にわたる。
- （※2）Consumer to Consumerの略称。消費者間での電子商取引であり、例としてフリーマーケットサイトやオークションサイトにおける取引がある。
- （※3）Internet of Things（モノのインターネット）の略称。建物、車、及び電子機器等の様々なモノをネットワークによりサーバーやクラウドサービスへ接続し、相互に情報交換する仕組み。

このような環境のもと、当社グループは品質と効率化を高水準で満たしたセキュリティサービスをワンストップで提供する総合ネットセキュリティ企業として、事業拡大及び収益性向上を追求してまいりました。

2019年8月に株式会社グレスアベイルを子会社化し、クラウド型のファイアウォールやセキュリティ診断ツール（以下、クラウド型セキュリティ製品という）を自社開発する体制を整えております。

また、第三者テストであるデバッグ事業におきましては、トラネル株式会社が株式会社アイティエスを吸収合併するとともにEGテストサービス株式会社へ社名変更し、電子機器等ハードウェアとソフトウェアのデバッグ事業を統合いたしました。

これにより、投稿監視及びカスタマーサポート、デバッグ、並びにサイバーセキュリティの3つの軸を確立し、総合ネットセキュリティ企業として、経営理念である「We Guard All」の実現に向けた事業拡大を図り、企業価値向上を目指してまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,854,485千円（前年同期比15.1%増）、営業利益は359,204千円（前年同期比20.6%増）、経常利益は374,795千円（前年同期比17.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は233,218千円（前年同期比12.9%増）となりました。

当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はありません。業務の種類別の業績は以下の通りであります。

① ソーシャルサポート

成長を続けるソーシャルWebサービス（※4）において、監視・CSだけではなく、運用や分析といった多種多様な新サービスの展開や既存顧客への深耕営業に注力いたしました。加えて、CtoCサービスにおいて、違法性のある取引が問題視されていることを背景に、SNS上のキーワード調査を行うことにより不正取引を検知するCtoCパトロールサービスの提供を開始いたしました。

その結果、売上高は702,005千円（前年同期比27.4%増）となりました。

用語説明

（※4）SNSやブログ等のソーシャルメディアや、ソーシャルゲーム、Eコマース等の、個人同士双方向のコミュニケーションが介在する全てのインターネットメディア。

② ゲームサポート

豊富な運用実績とノウハウの蓄積により既存顧客との関係の強化を目指すと同時に、デバッグを提供するEGテストサービス株式会社と連携したサービスの提供、日本市場に参入する中国系及び韓国系海外ゲーム企業の多言語カスタマーサポートの受注に注力いたしました。また、クラウドゲームの盛り上がりを背景に、10年以上蓄積した運用ノウハウを活用し、リアルタイムかつ快適な環境の運用に貢献するクラウドゲームトータルサポートの提供を開始いたしました。

その結果、売上高は650,802千円（前年同期比1.8%増）となりました。

③ アド・プロセス

既存の広告審査業務だけでなく、広告枠管理から入稿管理、広告ライティング等の提供サービスの拡大に注力するとともに、派遣・常駐型業務と当社センター業務を組み合わせた運用に加え、自社開発したRPA（※5）の活用により競合他社との差別化を図り、既存顧客への深耕営業を目指してまいりました。また、インターネット広告市場の拡大に伴う人手不足を背景に、広告専門人材育成・派遣サービスの提供を開始いたしました。

その結果、売上高は226,296千円（前年同期比1.1%減）となりました。

用語説明

（※5）Robotic Process Automation（ロボティック・プロセス・オートメーション）の略称。機械学習及び人工知能等を活用した業務の効率化・自動化の取り組み。

④ その他

サイバーセキュリティ分野におきましては、EGセキュアソリューションズ株式会社が、脆弱性診断サービスに加えWEBセキュリティコンサルティングに注力いたしました。株式会社グレスアベイルは、次世代クラウド型WAFサービス「GUARDIAX」を開発・提供いたしました。WEBセキュリティ業界の第一人者である徳丸浩（EGセキュアソリューションズ株式会社代表）が開発に関与することで品質向上を図っております。「GUARDIAX」はAIによる自動解析制御や高度ログ分析等の高度な機能を持ち、サイバー攻撃被害の最小化に貢献いたします。

また、電子デバイス等のハードウェアに対するデバッグ事業におきましては、EGテストサービス株式会社が、ソフトウェアのデバッグ事業とシナジーを発揮し、既存顧客への深耕営業や新規開拓を図り、シェア拡大を目指してまいりました。

その結果、売上高は275,381千円（前年同期比43.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、3,653,241千円となり、前連結会計年度末における流動資産3,519,018千円に対し、134,223千円の増加（前連結会計年度末比3.8%増）となりました。

これは主に、売掛金が69,237千円増加し、加えて現金及び預金が35,618千円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、1,017,063千円となり、前連結会計年度末における固定資産1,079,426千円に対し、62,363千円の減少（前連結会計年度末比5.8%減）となりました。

これは主に、繰延税金資産が29,707千円減少したことによるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、4,670,305千円（前連結会計年度末比1.6%増）となりました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、1,032,823千円となり、前連結会計年度末における負債1,110,321千円に対し、77,498千円の減少（前連結会計年度末比7.0%減）となりました。

これは主に、未払金が88,144千円増加し、未払法人税等が137,469千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、3,637,481千円となり、前連結会計年度末における純資産3,488,123千円に対し、149,358千円の増加（前連結会計年度末比4.3%増）となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益233,218千円を計上した一方、剰余金の配当92,594千円を実施したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当年度の業績予想は、2019年11月5日公表時点から変更なく、現時点で業績予想の修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,744,699	2,780,318
売掛金	705,083	774,320
仕掛品	4,746	11,452
その他	64,488	87,149
流動資産合計	3,519,018	3,653,241
固定資産		
有形固定資産	462,300	463,175
無形固定資産		
のれん	200,840	188,670
ソフトウェア	38,120	53,181
ソフトウェア仮勘定	11,185	—
その他	311	311
無形固定資産合計	250,457	242,163
投資その他の資産	366,669	311,724
固定資産合計	1,079,426	1,017,063
資産合計	4,598,445	4,670,305
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,568	5,044
短期借入金	6,000	—
1年内返済予定の長期借入金	16,068	—
未払金	435,809	523,953
未払費用	15,160	11,936
未払法人税等	211,577	74,107
未払消費税等	116,037	138,978
賞与引当金	99,508	56,367
その他	42,591	106,673
流動負債合計	951,321	917,062
固定負債		
長期借入金	54,935	—
役員株式給付引当金	69,170	75,202
長期預り保証金	26,519	24,615
その他	8,374	15,943
固定負債合計	159,000	115,761
負債合計	1,110,321	1,032,823
純資産の部		
株主資本		
資本金	364,280	364,280
資本剰余金	376,512	376,512
利益剰余金	3,037,318	3,177,942
自己株式	△343,305	△343,353
株主資本合計	3,434,806	3,575,382
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△8,409	△0
その他の包括利益累計額合計	△8,409	△0
非支配株主持分	61,726	62,099
純資産合計	3,488,123	3,637,481
負債純資産合計	4,598,445	4,670,305

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
売上高	1,610,788	1,854,485
売上原価	1,045,788	1,174,777
売上総利益	565,000	679,708
販売費及び一般管理費	267,240	320,503
営業利益	297,759	359,204
営業外収益		
受取手数料	224	173
補助金収入	21,090	18,914
受取補償金	23	—
その他	380	1,946
営業外収益合計	21,718	21,033
営業外費用		
支払利息	201	720
為替差損	493	3,815
その他	42	906
営業外費用合計	737	5,442
経常利益	318,740	374,795
特別利益		
移転補償金	—	4,463
特別利益合計	—	4,463
特別損失		
固定資産除却損	—	9,939
事務所移転費用	5,218	—
特別損失合計	5,218	9,939
税金等調整前四半期純利益	313,522	369,319
法人税、住民税及び事業税	83,257	93,754
法人税等調整額	23,668	41,973
法人税等合計	106,926	135,727
四半期純利益	206,595	233,591
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	373
親会社株主に帰属する四半期純利益	206,595	233,218

（四半期連結包括利益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
四半期純利益	206,595	233,591
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,486	8,409
その他の包括利益合計	3,486	8,409
四半期包括利益	210,081	242,001
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	210,081	241,627
非支配株主に係る四半期包括利益	—	373

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。